

天秤は左右の重さが均等であるのかを調べる道具です。見た目バランスが悪いと見えたとしても、左右の均等が取れているのであれば、バランスが取れている事が証明されます。たくさんパーツを集めてバランスをみていくとしても“どのように”していくのかをしっかりと考えていかないとうまく立てられません。これらはすべての物質に均等に重力がかかっているからできる事です。重力は私たちに人間に対しても同様に均等にかかっています。これは私たちの人生に対しても同様です。成功している人を見て「あの人は“運”がよかった」と言ったり、反対に悪い事があると「“間”が悪い」と偶然に起こってしまったように言ったりします。しかし物事には「運」や「偶然」はなく全てが「必然」、起こるべくして起こるのです。私たちにチャンスが巡って来たとき、または問題やストレスを感じた時にいかにバランスよく受け取れるかが大切であり、それは結果に大きな違いが現れてきます。現代の若者は安心と安定を求めています。しかしそれを得ようとするための努力を避けています。見栄や体裁ばかりを考えて人の嫌がることはしません。しかし本来は人の嫌がることをしなければ安心や安定といったものは手に入りません。私たちはバランスの取れた人生を送っているのでしょうか。今、私たちのしている事はバランスが取れているのでしょうか。例えば、一つ何かが話題になれば、社会現象になってしまうほど特に若い世代は流行に流されやすく影響を受けやすい傾向にあります。なぜ人の持っているものを真似していくのでしょうか。その理由が人と比べ、優越感や劣等感、またはみんなが持っているからなどであればバランスが崩れています。しかしそれはバランスの前に基礎である根本の考え方が間違っていることに起因しているように感じます。聖書の中に律法学者やパリサイ人がイエスキリストを陥れようとカエサルに税金を納める事を認めるのかと質問をしてくる記事があります(ルカ20:20～25)当時のユダヤ人はローマ帝国の支配下にありました。したがって、ローマ帝国に対して税金を納める事になっていました。ユダヤ人はローマ帝国に税金を納めることに対して不満を持っていました。それはユダヤ人の律法には書かれていないことだったからです。律法学者たちはイエスを試そうと質問をしてきました。税金を納めなくてもよいと言えば、ローマに対して反逆罪として訴えられ、税金を納める事を肯定すればユダヤ人から反逆者として訴えられてしまいます。これはどちらを選択しても正解のない罠でした。この他にもパリサイ人姦淫の現場で女性が捉えられ、イエスの元につれてこられた時も、バランスの取れた答えを出し、女性を救いました(ヨハネ8:3～12)パリサイ人とはいつも聖書を片手にかかえて、人々から立派に見えることばかりをしていました。それ故に自分たちの立場を脅かすイエスキリストを排除しようとして罠にかけようとする質問を至るところでするようになります。しかしイエスキリストはパリサイ人たちの企みに気づき、バランスの取れた答えをして乗り越えていきました。イエスキリストは感情的ではなく、冷静に判断していました。感情を出すことが悪いと言っているのではありません。イエスも宮で商売をして律法を犯している人々に対しては怒りを表しながら宮清めをしています。感情は出せば良いし、出さなければなりません大切なのは感情によって判断しないということです。イエスキリストは何かをしようとするときに、いつも「目的」と「なぜそれをするのか」がはっきりしていました。そしてこれを行った時に「どのような問題がおこるのか」を考えていました。私たちも生きていながら「なぜするのか」「どうしてするのか」「どのようにするのか」というこの3つの事を考えて生活していきましょう。自分のしていることに対して「なぜするのか」と理由を理解して行動する事が大切です。これがないと安定、安心した生活を送ることはできません。なぜならば、自分だけよければ良いという考え方に偏ってってしまうからです。日本には共存共栄という言葉がありますが現代においては家族であっても助けには答えず、自分が困った時は助けてほしいと願っている。「依存」が増えています。これはバランスが崩れてしまった結果です。私たちは実際のことを言われるのがいやです。言われるときはバランスが崩れているので、落ちているときにつかれるから余計に落ちるのです。そこでイエス様がしたように私たちは感情に流されず正しい判断をするべきなのです。そのために3つのポイントが大切だし、これを失っているとバランスを崩すのです。それは少しの差であっても傾いてしまうのです。これが出来ていないと感情的になって相手の言葉を否定してしまったり、やるべき事が分かっているが、逃避してしまったりして正しい事ができなくなります。ですから以下の3つのポイントをしっかりと理解して私たちの行動に適用していきましょう。偏らないために①**目的を確認**していきましょう。「なぜ」するのかをはっきりとさせましょう。なぜ今それをするのでしょうか。今それをすべきなのか、それよりも優先すべきことはないのかを考えましょう。確認した上でそれでも必要だと思うならばいいのです。なぜするのか、自分の役割や立場を踏まえてバランスが取れている答えがあるのか、しっかりと目的(なぜに対する答え)をもって行動していきましょう。偏らないために②**基礎を確認**していきましょう。良い行いをしようとしても、行う人が悪ければ良くありません。「人は自分の行ないがごとく純粋だと思ふ。しかし主は人のたましいの直うちをはかられる。(箴16:2)」私たちのしようとしている事は何のためにしているのでしょうか。自分の名誉、欲、周りの人によく思われたい…のように悪い心で行おうとしているのか、たましいの直うちをはかられています。周りの人からの尊敬を受けたい一心で行っていたパリサイ人のようではいけません。宮で金持ちが献金していた姿と2レプタを捧げたやもめ(ルカ21:1～4)を見ていた人はどちらが神に受け入れられる正しい行動でなのかを理解していました。私たちも何が良い事であるのかを頭では理解しているのではないのでしょうか。しかしそれを自分の行動に適用することができません。ですからしっかりと自分の基礎を確認する必要があります。自分を見つめるには鏡が必要です。しかしこの鏡がなくなってきているために見つめなおす事ができません。良い行いをしようとしているのに、心が良くないのであれば意味がありません。私たちの良心は今まで接してきた人からの影響によって築きあげられてきました。しかし人からの言葉を正しく受け止める事ができないのであれば、偏った良心になっている可能性があります。ですから自分を見つめ直し、基礎を確認する必要があります。③**問題確認**をする。これは目的と動機がはっきりし、実際に行動する際にどのような問題が起きるのか。それに対して事前に確認する事が大事なのです。リスクマネジメントという言葉があります。これは物事を進めていく時にどのようなリスクがあるのか想定し、対策をとっていく事を表しています。これは聖書が教えている正しい生き方なのです。世の中では自分の利得のために行っていきますが、クリスチャンは違います。私たちが良くなるのは私たちのためよりも私たちの周りにいる人々が良くなってほしいという強い思いからしているのです。自らのためにしているではありません。「いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。(マタ16:25)」私たちは周りの人のためにと思っても、自己中心のままではバランスを欠いている状態ですので、良い事をする事はできません。私たちの中心にあるものを確認しその上で私自身と私たち自身の持っているものや、している事、考えている事がバランスの取れているのかを確認していきましょう。そのためには私たちの基礎となる聖書の土台に立ちましょう。そしてイエスキリストの思いを引き継ぐ者として私たちに与えられている目的を理解していきましょう。そうすれば目の前に起こる事に対しても偏った見方をするのではなく、バランスの取れた行動をしていく事ができます。「なぜするのか」「どうしてするのか」「どのようにするのか」をしっかりと考え、結果を求めず目的を求めながら歩んでいきましょう。(要約者：平澤一浩)